

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2024年度活動報告】

主催	日時	全学公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	FDの区分			参加人数
								教育	研究	社会貢献	
学修支援・教育開発センター	6/12(水) 12:45-13:15	○	オンライン	本学教職員 (非常勤含)	学生と作る授業 第1回 学生が自ら授業外学習をする気にさせるには	只友 景士 政策学部教授/FD・教学IR企画推進委員	授業を進める中で、この進め方でよいのか悩むことはありませんか。そんな時は受講学生の意見を聞いてみるのはいかがでしょうか。本学ではLMS「manaba」とともにリアルタイムで学生に質問できる「respon」を提供しています。今回は、授業1回ごとの学習サイクルを「manaba」を活用して学生と共有し、授業外学習の状況や理解度を「respon」で確認して学生と作る授業を実践している政策学部の只友教授に報告いただきます。	◎			28
	6/15(土) 14:00-17:00	○	22号館 101教室	本学教職員 JPFFおよびHEIJ加盟校教職員	学修者本位の教育の実現 ー学生参画の観点からー	田中 正弘 先生 (筑波大学 教学マネジメント室 准教授) 武 寛子 先生 (愛知東邦大学 教育学部 子ども発達学科 准教授) 肥田 奈緒子 氏 (成城大学 教育イノベーションセンター 主任) 石原 芳典 氏 (龍谷大学 学生部 課長)	2018年の中央教育審議会の報告書では、高等教育機関が学生中心に転換し、学生の視点から質を向上させる重要性が強調されました。近年のアメリカやヨーロッパなどで用いられてきた学生参画の概念が、日本においても大学の質保証という観点から注目されてきています。日本において、学生が政策運営にかかわることは珍しいものの、学生本位の大学教育を推進するにあたり、単に大学側のエビデンスの材料として学生を「活用」するのではなく、学生が大学運営に参画することが学びの質の向上に繋がるということを明らかにする機会とします。	◎			118
	7/29(月) 15:15-16:45	○	ハイブリッド	本学教職員	京都奏和高等学校における 総合的な探究の時間 ー「生き方・あり方」に向き合い表現するしかけー	井上 翔一 氏 京都市立 京都奏和高等学校 教諭 / 令和5年度 京都市立高等学校 総合的な探究の時間研究会 事務局長	京都市立京都奏和高等学校の実践事例をご紹介します。「生き方・あり方」を軸とした展開が求められる総合的な探究の時間について、キャリア教育の位置づけや関連、そして本学・京都市・京都信用金庫との産学官連携で進める探究活動の実際について、参画する本学学生の事例報告も含めた内容を予定しています。	◎			86
	12/19日(木) 12:45~13:15	○	オンライン	本学教職員 (非常勤含)	学生と作る授業 シラバスで学生と到達目標を共有する	出羽 孝行 学修支援・教育開発センター長 L2学部教授	シラバスとは、講義を担当する教員が、その講義科目について、到達目標、概要、成績の評価方法や基準、講義計画等について記載するものです。学生が履修する科目を選択したり、学習計画を立てたりする上でよりどころとなるツールであり、「教員と学生の契約」と位置づけられることもあります。また、今日では「学生の主体的な学び」を促す重要なツールの一つとしてシラバスの活用が求められています。そのため、本学では、教員向けにシラバスに記載する必須項目や記載方法を示す「シラバス作成の手引き」を発行し、シラバスの記載内容に不足や偏りが生じないようにしています。この度、2025年度版の「シラバス作成の手引き」を発行しました。次年度に向けて、学生が主体的に到達目標に向けて学習することができるようになるシラバスの書き方を一緒に考えませんか。	◎			24
	12/5(木) 15:15 ~ 17:00	○	ハイブリッド	一般公開	東アジアにおける高等教育の展開ー日本への示唆ー	広島大学 大学院人間社会科学 研究科 教授小川 佳万氏	近年の日本の教育現場ではさまざまな課題が山積しており、とりわけ高等教育の現場では、教育の質保証や文理融合的な学びの充実、そして学生支援の充実などが期待されています。 本学でも私立大学としての独自性を踏まえつつ、「龍谷大学基本構想400」に基づき持続的な大学運営を展開しているところです。 そこで、今回は、近隣アジア諸国の高等教育の現状から、あらためて日本の高等教育の「進むべき道」について考える機会にすべく、比較教育学者である小川佳万先生をお招きする□□にしました。 小川先生には、東アジアの大学入試改革や留学生募集戦略を中心に、高等教育の大衆化に伴う学生支援の実際についてもお話しいただきます。小川先生は2023年度にイタリア・[ボローニャ]大学に訪問教授として滞在され、近年では中国をはじめ、台湾や韓国における総合的な学習についても研究されておられます。	◎			61

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2024年度活動報告】

主催	日時	全学公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	FDの区分			参加人数
								教育	研究	社会貢献	
文学部	7月10日(水) 15:40~16:40	○	オンライン開催	本学教職員(特任を含む)	新学習指導要領における高校での学びの変化について	竹田 昌弘 講師(龍谷大学高大連携推進室フェロー)	<p>2025年4月から新学習指導要領で学んだ高校生が大学へ進学してくる。この新学習指導要領では、探究学習をとおして、「生徒の主体的な学び」を育むことを目指している。従来の「正解を探し100点をめざす教育」から、「答えのない問いに取り組む教育」へとシフトしているのである。</p> <p>このように2025年度の新入生はこれまでと違った学習指導要領に沿った学習をしていくため、受け入れる側である大学教職員もその内容を理解しておくことは講義および学生指導の観点から有意義と考えられよう。</p> <p>については、本FD報告会では、新学習指導要領に熟知した本学高大連携推進室フェローの竹田昌弘先生を講師としてお迎えし、現在の高校での学びの内容や探究学習の取り組みについてご教示いただき、今後大学が高校生をどう受け入れていくべきかについて考える機会としたい。</p>	◎			80
	10月9日(水) 15:40~16:40	○	オンライン開催	本学部教職員	障がい学生への合理的配慮の提供と建設的対話について(文学部・心理学部共同開催)	村田 淳 先生 (京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門 准教授)	<p>2024年4月より、私立大学においても「合理的配慮の提供」が「努力義務」から「義務」に変更となった。また、近年の合理的配慮には、障がいの「社会モデル」に基づいて、「事物、制度、慣行、観念その他一切のもの」と定義される社会的障壁を除去することが求められており、教育機関においてはより確実な学びの権利保障が必要となっている。そして、本学では2024年4月から、建設的対話を重視する、配慮提供の新しいフローをスタートさせている。</p> <p>このように、障がい学生への合理的配慮提供に関わる社会状況も、本学の対応のあり方も、近年大きく変化をしている。そのため、近年の障がい学生を取り巻く状況を改めて理解しておくことと、多様化する配慮へのニーズにどのように対応していくのかについて指針を得ておくことは、講義及び学生指導の観点から有意義と考えられよう。</p> <p>については、本FD報告会では、障がい学生への合理的配慮を熟知し、それを実践している京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門准教授の村田淳先生を講師として迎え、近年の障がい学生を取り巻く状況と、配慮提供に関する知見について講演してもらうことで、今後大学が障がい学生に対してどのように合理的配慮を提供していくべきかについて、考える機会としたい。</p>	◎			82

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2024年度活動報告】

主催	日時	全学公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	FDの区分			参加人数
								教育	研究	社会貢献	
心理学部	2月5日(水) 15:15~16:45	○	対面・オンライン開催 (teams)	本学部教職員	キャンパス・ハラスメントはなぜ問題なのか —教育研究の場でおきるハラスメントの実情と対策— (全学ハラスメント防止研修会) (経済学部、経営学部、法学部、政策学部、国際学部、 国際学研究所、農学部、先端理工学部、心理学部、短期 大学部、人事課、学生部 共済)	北仲 千里 先生 (広島大学ハラスメント相談室 准教授)	・ハラスメントについて、正しく理解する ・特に教職員が留意すべき点を、専門家から学ぶ ・今後のハラスメント防止に役立てる	◎			26
	10月9日(水) 15:40~16:40	○	オンライン開催	本学部教職員	障がい学生への合理的配慮の提供と建設的対話について (文学部・心理学部共同開催)	村田 淳 先生 (京都大学学生総合支援機構 障害学生支援部門 准教授)	2024年4月より、私立大学においても「合理的配慮の提供」が「努力義務」から「義務」に変更となった。また、近年の合理的配慮には、障がいの「社会モデル」に基づいて、「事物、制度、慣行、観念その他一切のもの」と定義される社会的障壁を除去することが求められており、教育機関においてはより確実な学びの権利保障が必要となっている。そして、本学では2024年4月から、建設的対話を重視する、配慮提供の新しいフローをスタートさせている。 このように、障がい学生への合理的配慮提供に関わる社会状況も、本学の対応のあり方も、近年大きく変化をしている。そのため、近年の障がい学生を取り巻く状況を改めて理解しておくことと、多様化する配慮へのニーズにどのように対応していくのかについて指針を得ておくことは、講義及び学生指導の観点から有意義と考えられよう。 については、本FD報告会では、障がい学生への合理的配慮を熟知し、それを実践している京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門准教授の村田淳先生を講師として迎え、近年の障がい学生を取り巻く状況と、配慮提供に関する知見について講演してもらうことで、今後大学が障がい学生に対してどのように合理的配慮を提供していくべきかについて、考える機会としたい。	◎			26
経済学部	10月30日(水)	○	対面 和顔館B104	本学教職員	Violence and Socio-economic Outcomes of Ukrainian Refugees in Poland (在ポーランドのウクライナ難民の社会経済環境と犯罪)	クラフチック マリウシュ	在ポーランドのウクライナ難民の社会経済環境と犯罪について、外部講師を招き報告会を開催した。		◎		—
	3月17日(月)	○	対面(教授会内) 紫英館大会議室	経済学部教員	龍谷IP事業—京都老舗の会と連携した地域産業活性化プロジェクト	辻田 素子	2024年度より龍谷IPに採択された京都府および「京都老舗の会」との連携による地域産業活性化プロジェクトに関するFD報告会を行う。	◎			41
経営学部	2025年1月16日(木) 11:00~	○	対面& オンライン(Zoom)	本学教職員	「起業論B」(秋庭)、「ものづくりの現場」(細川)、「地域と企業」(眞鍋)実施報告会	経営学部プログラム科目担当者 (細川孝教授、眞鍋邦大准教授、秋庭太准教授)	経営学部では、「現場で学ぶ経営学」をコンセプトとしたプログラム科目を開設し、理論だけでなく実習教育も重視した教育を展開している。本報告会で、プログラム科目の実施状況およびその学習効果について各担当者が報告し、情報共有を図る。	◎			8
	2025年1月28日(火) 17:30~	○	対面& オンライン(Zoom)	本学教職員	合同型演習における合同報告会	経営学部 坂本雅則ゼミ3年生 濱田崇嘉ゼミ3年生	社会人基礎力をゼミで養成することを目指した経営学部の合同型演習で義務づけられている「合同報告会」を実施する。坂本ゼミと濱田ゼミのゼミ生(3年生)が下級生のチームワークに日常的にコーチングを行った結果から、どのようなことをつかんだのかを成果報告する。	◎			9
法学部	2月5日(水)15:15~ 16:45	○	オンライン(Zoom)	法学部教員	ハラスメント防止に関する研修会 ※ハラスメント問題委員会(法務課)主催	北仲 千里 氏	・ハラスメントの種類や違い、具体的事例、教職員が留意する点	◎			把握なし

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2024年度活動報告】

主催	日時	全学公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	FDの区分			参加人数
								教育	研究	社会貢献	
国際学部	2024年11月20日 (木) 13:40～14:30	○	オンライン	国際学部専任教員	「新たな学びのスタイル_13+2、導入の経緯とその内容」	同志社大学政策学部教授 大島 佳代子 氏	2024年度から同志社大学で導入されている「DO Weekから始まる13 + 2の新たな学年暦」について、教学部部長として携わられた大島氏に導入経緯や検討の流れ、現状について講演いただいた。	◎			39
	2025年2月5日(水) 15:15～16:45	○	オンライン	国際学部専任教員	ハラスメントに関するFD 「キャンパス・ハラスメントはなぜ問題なのか—教育研究の場でおきるハラスメントの実情と対策—」	広島大学ハラスメント相談室 北仲 千里 氏	ハラスメントとは何か、特に教職員が留意すべき点、ハラスメント防止策について、講演いただいた。 ※法務課主催	◎			37
社会学部	5月29日	○	オンライン	社会学部教員	研究員による研究成果報告	村澤教授、筒井教授、嶋崎准教授	2023年度研究員による研究成果報告		◎	○	47
農学部	6月12日	○	オンライン	本学教職員	2024年度農学部・農学研究科における進路実績報告に関するFD	キャリアセンター	農学部5期生及び農学研究科4期生の就職状況の結果分析や学科毎の進路業種の傾向などをキャリアセンターから報告する。 また、現在行っている4 年次生の進路希望調査の結果についても学部・研究科内で共有し、今後の就職支援の方策などを考える機会とする。	◎		○	47
	9月25日	○	対面	本学教職員 農学部生・農学研究科生	農学部教員の研究内容に関するFD 第4回 龍谷 食と農のサイエンスセミナー	農学部教員	各教員が自身の研究内容を紹介し研究活動の活性化及び教員の交流機会を創出する。 生命科学科 永野 惇 先生 タイトル: 植物と気候の相互作用の解明に挑む	○	◎	○	43
	10月30日	○	オンライン	本学教職員	「農学部6期生の学修状況」「大学IRコンソーシアム学生調査結果」「2024年度アセスメントプランによる学修成果・教育成果 検証結果報告」についてのFD	農学部教員	「農学部6期生の学修状況」「大学IRコンソーシアム学生調査結果」「2024年度アセスメントプランによる学修成果・教育成果 検証結果報告」について	◎			46
短期大学部	7月17日	○	対面	本学教職員	合理的配慮の義務化に伴う学生の支援について	障がい学生支援室 瀧本氏	学生にとって必要な合理的配慮の提供と、教員として適切に対応するための基本ガイドラインなどを事例を交えながら学ぶ。	◎			16
	12月18日	○	対面	本学教職員	ひとりひとりの命が輝くために	宮本 啓子 氏 NPO法人日本ミュージック・ケア 協会理事長 日本音楽療法学会認定音楽療法士 加賀橋立北前船ソウリズム 副代表	宮本氏は龍谷大学短期大学部社会福祉科を1968年に卒業後、NPO法人日本ミュージック・ケア協会を設立し、音楽療法世界大会において、研究発表・ワークショップ活動をしておられる。「だれでも どこでも いつでも楽しめるミュージック・ケア」の実践例を自身の体験を踏まえ、講演する。			◎	17
経済学研究科	6月26日(水)	○	対面・オンライン 紫英館大会議室	本学教職員	修士課程の経済学総合研究プログラムのカリキュラムの再編検討	大原 盛樹(研究科長) 木下 信(研究科教務主任)	修士課程の経済学総合研究プログラムのカリキュラムについて、昨今の学生が履修する科目傾向や開設科目の統廃合を含めた検討のため、情報共有及び課題認識を深める。	◎			27

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2024年度活動報告】

主催	日時	全学公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	FDの区分			参加人数
								教育	研究	社会貢献	
国際学研究科	2月5日	○	深草学舎 22号館 103教室	国際学研究科構成員	「教育研究の場でおきるハラスメント」	北仲 千里 氏(広島大学ハラスメント相談室准教授)	・ハラスメントについて、正しく理解する ・特に教職員が留意すべき点を、専門家から学ぶ ・今後のハラスメント防止に役立てる ※法務課主催	◎	◎		35名 研究員除く 研究科委員 会構成員 全員
	11月13日	○	オンライン	在外研究員事後報告会	イエスの祈りと念仏 - ギリシア正教修道制と中国浄土教の歴史展開における比較考察	久松英二(国際学部教授)	イエスの祈りと称名念仏の成立過程を比較し、両者の思想的背景とその比較を試みる。両宗教における救済観を背景にして、念仏とイエスの祈りの実践伝統に見られる「憶念」の先行性、難行としての「観」と易行としての「称」、凡夫・罪人の自覚などの点を挙げ、それらの思想的並行性に焦点を当てる。	○	◎		11名
社会学研究科	7月24日 15:15-16:15	○	対面 6号館プレゼンテーション室	本学教職員	修士論文・博士論文に主眼を置いた剽窃防止に関して	京都大学医学部附属病院倫理支援部 副部長 渡邊 卓也氏	社会学研究科(修士課程・博士後期課程)においては、毎年の修士論文の提出に加え、今後、複数の博士論文の提出が予想される。研究科所属の学生は、社会人、留学生等、年代・国籍も多様であり、受けてきた教育も様々ではない。研究倫理教育については研究科でも力を入れているところではあるが、学生への適切な論文指導のためには、教員側が研究倫理、特に重大な結果につながりかねない剽窃防止について理解を深めておくことが重要である。このため、2024年度社会学研究科FDとして、研究倫理に関する分野の第一人者である専門家を招き、剽窃防止に関する講演会を開催した。	○	◎		17
農学研究科	6月12日	○	オンライン	本学教職員	2024年度農学部・農学研究科における進路実績報告に関するFD	キャリアセンター	農学部6期生及び農学研究科5期生の就職状況の結果分析や学科毎の進路業種の傾向などをキャリアセンターから報告する。 また、現在行っている4年次生の進路希望調査の結果についても学部・研究科内で共有し、今後の就職支援の方策などを考える機会とする。	◎		○	47
	9月25日	○	対面	本学教職員 農学部生・農学研究科生	農学部教員の研究内容に関するFD 第4回 龍谷 食と農のサイエンスセミナー	農学部教員	各教員が自身の研究内容を紹介し研究活動の活性化及び教員の交流機会を創出する。 生命科学科 永野 惇 先生 タイトル:植物と気候の相互作用の解明に挑む	○	◎	○	43